

女子教育に就きての疑問

高田 中原 ふく

女子に學術技藝を授くるは、良妻賢母を養成せんと
ての目的なるべし。良妻賢母の素因は學識にあるに
や、はた、德行にあるにや、識なくば家を治め、事を
處すること能はざるべし、徳なき人はいかでか子女の
教養を完うし得べき。學識固より必要なり、されど信
ず、いかに識博く、學深くとも、徳義の何者たること
を顧みざる人は人間の價値なきものなりと。世の良妻
賢母とは價値ある人間の謂なるべし。この價値を有す
べき婦人を養成すべき女學校其他にして、其基礎たる
良心の修養にいかなる方法をとるべきか、是れ大に研
究すべきことならずや。かの宗教學校は信仰といふ
唯一の手段ありて修養の便を得るもの如し。然れど
も宗教を離れたる一般女學校にありては、教師は其

學術を授くるのみを以て（勿論生徒の德行に留意して
矯正すべけれど）任とし、僅かに主任教師の生徒の徳質
を看破して時々誨諭を加へ良心を反省せしむる一法あ
るのみ。若し此法にして數年に渡らんか、著しき効
果をあらはすべしと雖も、主任の永續すること種々の
事情より許されざること多し、かつ良主任を得ること
は極めて難事たり、故に其人なくも良心修養の道は
終始絶えざる方法なきか。

つらく女學校時代の子女の心を察するに、愛すべ
き天真爛熳ははや其跡を止めて、巧みに人前を飾り顔
色を窺ひて事をせんする時代なり。此際に當りてよく
其本性を看破して道義心を吹込むこといと難し、良師
ありて「彼等に向ひ來れ汝の爲めに其特質を告げん」
といふも彼等聞くことを欲せず、言はるゝ時は不興の
色を呈し、内心には意地悪さ師よ人をあしざまにいふ

など、不平を鳴らして毫も心の曲みを直すべくも見えず、ぬはいかにぞや。かゝる者は顔の汚れを示されて謝辭萬遍する比類なるべし、是れ之を矯むる策なきか、之を救ふ良法なきか、夫れ或は生徒より神の如く尊信せらるゝ良師の訓誨も効あるべし、校長の倫理談も必要なるべし、されど良主任ありて人たる心得を述べ將來に及ぼすことを告げ、身を以て模範となす教化に若かざるなり。あゝ主任の責輕からず、主任其人果して其任務を全うする人幾人かある。己経験に乏しく廣く女子教育の内情を知らずと雖も、各地の知友に依りてただしみるに、多くは良心の修養を缺くものゝ如し、實に嘆すべき至ならずや。かつ主任其人は徒らに名利を重んじ生徒の尊信をかはんとして汲々たる者ありと聞くに於てをや。そも〱女子教育の第一着眼は妬心を抑制するにあり。然るに無責任なる教師は、己が効を

誇らんがために徒らに競争せしめて其進歩を見んとす、是れ甚しき謬なり。何となれば、彼等は情の極盛時代なり、妬心も亦充てるものゝ如し。此時に當りて、無邪氣の競争を爲さしめ得るや、競争は一種の怨恨となり、妬心を一層熾ならしむるに至る。あゝ競争と奮闘とはよく思はざるべからず、萬般の悪事は妬心より起ると信じて可なり。されば價值ある婦人とならしめんがために、道義心修養の第一として此妬心を抑制するにありと、思ふはいかに。茲に貴紙を汚して其適否と方法に就き高教を仰がんと欲す。

